

2022年12月8日

原子力規制委員会
委員長 山中伸介殿

伊方から原発をなくす会
代表 近藤亨子

公開質問状

私たちは、1969年に伊方原発建設計画が明るみになって以来反対を貫いている現地の方々と連帯し、志半ばで鬼籍に入られた先人たちの『放射能とは共存出来ない』という強い思いを受け継ぎ、毎月11日の伊方ゲート前抗議行動を中心に、伊方原発の廃炉を求めている市民団体です。

9月22日付けの新聞に、「原子力規制庁が原発などの検査時に法で携帯が義務づけられている「検査官証」を持たずに検査した事案が今年7月から9月に計8件あった」との記事があり、この検査官証不携帯者による検査は伊方原発でも行われたと報道されていました。

この件について四国電力に質問すると「事案があったことは承知しておりますが、当社は内容等についてお答えする立場にありませんので、回答は差し控えさせていただきます」との回答でした。伊方原発では、昨年7月には重大事故対応要員が当直中に無断外出をしていた件もあり、自称検査官を構内に立ち入らせたことを、私たちが深刻に受け止めているのに対し、入構させた責任がある四国電力が「お答えする立場にありません」では余りに無責任であり、このような出入りが自由な原発で『テロ対策』が出来るとはとても考えられません。このルーズさや無責任さは、放射能を扱う企業としての危機管理能力の欠如で致命的です。

私たちは、原子力規制委員会が福島原発震災を経て組織された『規制』を冠した委員会として、学識を持った専門家として、原発の、特に40年を超える原発の住民の生命に対する甚大なりスクを科学し、独立した機関として運転期間の判断をするべきだと考えて、以下の質問を致します。

公開質問

私たちの日常は原発震災に加え、ルーズさが引き起こす原発人災の恐怖に曝されている現状を考察し、以下の質問に規制委員会委員長としての見解を12月23日までに文書にてお答え下さい。よろしくお願い致します。

1. 自称検査官が行った検査は有効なのですか。もし有効であるならば、その根拠を明らかにして下さい。
2. 自称検査官を原発構内に入れた伊方原発について正誤を明らかにして、その理由をご回答下さい。
3. 運転期間について、経産省が決めることについての見解をご回答下さい。

尚、頂いたご回答は公開させていただきます。